

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

1. テーマ

発達障害の可能性のある児童生徒の充実した学習と学校生活を実現するための手立ての工夫

2. 問題意識・提案背景

今まで各小中学校から、発達障害の可能性のある児童生徒の指導・支援について様々な相談が寄せられ、本町において大きな課題となっている。一例として、適切な教育支援や就学指導を進めるために、個々の児童生徒に対し特別支援学級への入級を進めているが、入級に対して家庭の協力が得られないことがあげられる。また普通学級に在籍はしているが、学級生活において、他の児童生徒と一緒に学習や行動ができない児童生徒をどのように扱っていったらよいか、戸惑っている場面もある。さらに発達障害のある児童は、何をもちょう判断するのがよくわからない等があげられる。

そこで教育委員会としても、「特別支援教育の指導や支援のできる指導者の育成」や、「教職員や保護者に対する『特別支援教育』に関する知識・実践の啓発」に向け取り組んでいきたいと考えている。

3. 指定校について

(小学校の場合)

指定校名： 白潟小学校												
学級数及び児童生徒数 通常7・特支1・児童数179												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	23	1	35	2	32	1	39	1	21	1	28	1
特別支援学級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
通級による指導の対象者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教職員数												
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教員	対峙カネー	その他	計		
1	1	9	1	1	1	1	1	0	2	18		

指定校名： 関小学校												
学級数及び児童生徒数 通常6 特支2・児童数136												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	23	1	23	1	24	1	28	1	15	1	20	1
特別支援学級	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	1
通級による指導の対象者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教職員数												
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教諭	スクールカウンセラー	その他	計		
1	1	11	1	0	0	1	1	0	0	16		

指定校名： 南白亀小学校												
学級数及び児童生徒数 通常6・特支1・児童数137												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	23	1	20	1	23	1	20	1	23	1	23	1
特別支援学級	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	2	2
通級による指導の対象者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教職員数												
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教諭	スクールカウンセラー	その他	計		
1	1	9	1	1	0	1	1	0	1	16		

(中学校の場合)

指定校名： 白子中学校											
学級数及び児童生徒数 通常9・特支2・生徒数262											
	第1学年		第2学年		第3学年						
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数					
通常の学級	87	3	85	3	83	3					
特別支援学級	4	0	3	2	0	0					
通級による指導の対象者数	0	0	0	0	0	0					
教職員数											
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教諭	スクールカウンセラー	その他	計	
1	1	18	1	1	1	1	1	1	0	26	

#### 4. 指定校における取り組み概要

- (1) 特別支援教育指導員として町で2名，特別支援教育支援員を各校1名の加配（町で4名）
- (2) 発達障害の可能性のある児童生徒の早期発見・早期支援
  - ① 保育所・保健センターと小学校の連携の充実
  - ② 各学校での月1回の発達障害支援会議（仮称）の実施
  - ③ 検査体制の充実（プロフィールリスト・WISCIVの実施等）
  - ④ 個別の指導計画の作成（中学校ではパソコンで情報を共有）
- (3) 教職員への支援・意識の改革
  - ① 特別支援アドバイザーの計画要請
  - ② 年3回，専門家を招聘しての研修会の開設
  - ③ ユニバーサルデザインの視点に立った支援
    - 学習の見通しが持てる黒板添付カードの作成・配布（『今日の予定』等）
    - 指導員による「磨き合う巡回授業参観」の実施（授業への助言活動）
    - 月に1回，広報誌「はじめの一步」の発行
    - 教職員対象の相談活動「はじめ一步の会」の開設（毎週金曜日放課後）

#### 5. 主な成果

- (1) 種々の取り組みにより，教職員の特別支援教育への関心・意欲・指導力が高まった。
- (2) 保育所・保健センターと小学校の連携が充実し，発達障害の可能性のある児童生徒の早期発見につながった。
- (3) 関係機関との連携，検査体制の充実等により，発達障害の可能性のある児童生徒に，より適切な支援ができるようになった。
- (4) 発達障害の可能性のある児童生徒の理解が進み，児童生徒の成長が見られた。

#### 6. 今後の課題と対応

- (1) 特別支援教育に対する保護者・町民の理解や意識改革を進める。  
＜対応＞ 講演会の開催，広報活動の充実，公開研究会を開催
- (2) 通常学級の発達障害の可能性のある児童生徒の教育支援計画・個別指導計画の作成を推進する。  
＜対応＞ 簡潔で使いやすい教育支援計画・個別指導計画の作成
- (3) 児童生徒一人一人の個性的な発達障害に対する，有効な支援法を探求する。  
＜対応＞ 発達段階に応じたタブレットのより有効な活用方法の探求
- (4) 研究指定の終わる28年度よりの特別支援教育をどう進めるか。  
＜対応＞ 各学校の特別支援教育コーディネーターを中心とした保育所・小学校・中学校の機能的な連携組織の構築

## 7. 問い合わせ先

組織名： 千葉県長生郡白子町

- (1) 担当部署 白子町教育委員会教育課
- (2) 所在地 千葉県長生郡白子町関5038-1
- (3) 電話番号 0475-33-2144
- (4) FAX 番号 0475-33-7461
- (5) メールアドレス [kyouiku@town.shirako.lg.jp](mailto:kyouiku@town.shirako.lg.jp)